

第46回「議員と語りかい」報告書

地域テーマ型 1班(No.1)

開催日	令和6年7月23日(火曜日) 19時00分 ~ 20時30分		
開催場所	霧島市役所 議会棟3階 第1・2委員会室・全員協議会室		
団体名	個人参加(国分・隼人地区)	参加 人員	8人 (男 0人:女 8人)
出席議員	前島 広紀、竹下 智行、久木田 大和、山口 仁美、松枝 正浩、下深迫 孝二、宮内 博 傍聴(野村 和人)		
役割分担	班長(前島 広紀)、副班長(竹下 智行)、記録係(山口 仁美)		
テーマ及び 具体的な内容	ゴミは宝の山 資源化を進めるために		

意見 交換 での 主な 意見 等	<p>【1班】</p> <p><Aグループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 添加物を使わないことを勧める活動をしてきた。 ● お母さんたちが忙しくて必死、近くに実家がないと大変。 ● お母さんたちが朝から晩まで頑張りすぎなくても良い環境を作れば、添加物もごみも減らせるかも。 ● 生活水準が上がっているが、子どもたちにしわ寄せが来ている。小さいうちに振り返って親がいて安心するという体験が少ない。 <p>フードドライブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保育園への提供。誰も受け取ってくれなかった。人の前で取りたくなくて、受け取らないという人。(誰でもいいですよ、だと受け取ってくれる。) ● 生活が大変な人たちに米を渡したいが、人前で渡すのは難しいかも、線引きが難しい。 ● 子ども食堂の手伝いに行った。対象者より、普通の人たちの方が多いようだ。そんな中で、たらの芽会の活動は参考になる。
---------------------------------	--

ペットボトル・ゴミ処理

- 家庭ゴミはしっかり分けるが、事業系ゴミは分けない。全体で見た効果はどうか。
- プラ全般の処理の合理性、労力や運搬費用、家にゴミがあるストレス。燃やしている自治体もあるのであれば、燃やしてはどうか。
- 分別では、大崎町のゴミ処理の仕組みも参考になるが、霧島市では難しそう。
- ゴミには売る側の問題もある。シンプルなパッケージを推進できないか。
- 家のコンポスト、匂いの問題がある。粃殻と混ぜると発酵。水分多いと腐る。キエーロの紹介。一般質問で紹介したことがある。

活動全般と連携の話

- 啓発活動が一番難しい。団体ごとの連携も必要。
- 生活学校では、マイクロプラスチック問題。生活の中からプラスチックが溶けて流れていく。普段使っているスポンジから、へちまのタワシを使ってみる活動など、国分小学校で講演。小学生が新聞を作ってくれた。(環境衛生課でも配布)
- 生活学校の取組を発表するところがあるといい。皆さんにお伝えしたい。大きな話題からスタートではなく、目の前(自分の台所)から進めていくことの大切さ。身近なことから一つずつ。
- 身近な啓発をどうするか。物価が上がっている今こそ、啓発には向いているのではないか。自分で作物を育てると、大事に使うようになる。農家からいろいろ学べる場もあるといいかも。失敗も良い体験。子どもと一緒に学べるといい。

【2班】

- 資料を中心に話を進めた。霧島市の数値が高いが、分かりにくいので、意識改革できるようにホームページ等工夫していった方が良い。
- 市の出前授業の資料5ページ、資料の数値が逆ではないか。
- 鹿児島市では、ゴミ袋の指定がないが、霧島市では指定あり。
- 若い人は分別できていない。
- 山手はゴミのポイ捨てが多い。
- リサイクルセンターに持ち込まれた後にどうなっているのかも伝えていくべきではないか。

【3班】

- フードドライブ、月1回集めて、月1回配布している。
- 本の販売もする。衣類・ランドセルなども対象だ。
- 廃油の取扱いも工夫できるのではないか。
- ディーゼル車に活用している事例もある。
- 廃油せっけんを学校で過去に作っていたが、廃油を集めるのが難しくなった。
- 大崎町の取組を紹介。
- コンポストの活用。木製のコンポスト。竹チップと粃殻を入れる「キエーロ」。
- クリーンセンターの建替えの話題(設置の理由の紹介を議員より)

意見交換での主な意見等